

事業計画書

| | |
|--------|---------------|
| 事業名 | 北山の棚田 休憩所整備事業 |
| 実施場所 | 沼津市戸田新田地区 |
| 実施予定期間 | 平成30年4月～10月 |

◎実施内容

| 日 程 | 実施項目・作業項目 |
|-----|--|
| | <p>※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。</p> <p>本事業のコンセプト</p> <p>日本の棚田100選に選ばれている戸田新田地区の「北山の棚田」は、担い手不足・鳥獣被害により景観の維持が危ぶまれている。沼津の宝でもあるこの棚田を守るには、新田地区の担い手と共に観光資源としての活用が必要である。</p> <p>申請者は29年4月より耕作放棄された棚田の再生に取り組み、数年ぶりに収穫することができた。この経緯から新田地区の古民家を貸して頂けることになり定住する計画である。現在、棚田にはトイレがなく必要に応じてくるら戸田か饗の里公園まで借りにいく状態であるが、この古民家を整備しトイレ・シャワー機能をもつ休憩所とすることで、棚田体験ツアーを開催し観光事業化していきたい。</p> <p>今後は厨房設備なども整備し、棚田観光の休憩所としてだけでなく飲食の提供、農家民宿の営業につなげていきたい。</p> <p>日程</p> <p>平成30年4月上旬 施工業者、設計・予算確定。改修工事着工。5月開催予定「北山の棚田・田植えツアー」募集開始。田植えツアー昼食業者選定。育苗代かき等田植え準備。</p> <p>平成30年5月上旬 改修工事完成。上旬より毎週土日を利用した「北山の棚田・田植えツアーア」開催。(12人定員×8回で開催、田植え体験、昼食。)</p> <p>平成30年6月～8月 月1回の棚田草むしりボランティアツアー開催。(ボランティアさん10名定員で開催、水源地まで案内、昼食。)</p> <p>平成30年9月上旬 上旬より毎週土日を利用した「北山の棚田・稻刈りツアーア」開催。(12人定員×8回で開催、稻刈り体験、昼食。)</p> <p>平成30年10月上旬 天日干し後精米。体験ツアーに参加してくれた方の中から希望者による棚田米試食、沼津の名産を味わうツアー「2018北山の棚田まんがーらい」を開催。(20人定員で開催、昼食。)</p> <p>北山の棚田 休憩所（仮称）の施設概要</p> <p>アクセス : 申請者の棚田より5分。 広さ : 約40 m² 設備 : トイレ2ヶ所、バスルーム1ヶ所。和室6畳、土間約12畳(テーブル2台、イス12脚)。</p> |

施設の活用方法

運用形態 : 棚田体験ツアーの拠点として運営する。
顧客設定 : 作製予定の棚田運営サイトにて田植え・稲刈りの作業を体験したい家族連れを主な対象として募集する。

【活用事例（案）】

①棚田を活用したツアー

「北山の棚田・田植えツアー」の開催時に活用し、体験前の作業の説明、トイレ（くるら戸田まで借りに行かなくて済む。）、作業後の手や足の泥落とし、昼食場所など。

②一般観光客の利便性向上

ツアーだけでなく北山の棚田を訪れた観光客の方へのトイレ機能の提供。各種チラシ・パンフレットの設置による戸田での滞留時間の延長や宿泊客獲得のチャンス拡大。

③地元の食材を活用したイベント

タチバナやウメ、シイタケなど地元の食材を活用したイベントの開催。開催場所としての提供。

運営体制

4月中旬から10月中旬までの6ヶ月間を棚田体験ツアーの期間とし、申請者が運営を行う。沼津市、戸田森林組合、新田地区自治会、地域住民の皆さんと連携し、観光資源としての北山の棚田の保全に努める。

情報発信

ツアー予約管理がネット上で行えるホームページを開設。Twitter、Instagramと連動した情報発信・告知を行い、農的生活に関心のある層に向けて直接的にアプローチする。また戸田地区への移住希望者のきっかけ作りにもなるようなスタンスで、ホームページ上で開催する各種イベントの募集も行う計画。

○事業効果

※事業の効果を記載して下さい。

ソフト部門のステップアップ型事業・ハード部門4事業については、事業効果に対して、客観的な評価ができるよう、成果指標と数値目標を設定するなど、その検証方法を必ず明記して下さい。

日本棚田百選に選ばれている「北山の棚田」には、まだまだ観光資源として活用できる可能性がある。そのためには「北山の棚田」を知つてもらう情報発信と、トイレ・休憩所などの整備が必要。棚田のある新田地区は車で戸田に入る際の玄関口であり、適切な情報発信があれば訪問者数は問題なく増加すると思われる。

棚田の認知が広まることによって、棚田での農作業体験ツアーへの申し込みも増加し、作業の準備、休憩所として効果的に施設を活用できる。

数値目標...イベントの参加者数...10人／1回

○評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを確認して下さい。

| | |
|-----|---|
| 公益性 | ※不特定多数の住民の利益の増進、地域のまちづくりの推進に寄与する事項等を記載して下さい。 北山の棚田に休憩所・トイレを併設することで、くるら戸田や饗の里、梅林公園までトイレを借りに行かなくても済むようになる。そのことで観光客の方の戸田での滞在時間を増加させることができ、訪れる人が増加すれば棚田自体が戸田への訪問動機となる。 |
| 発展性 | ※活動の広がりや波及効果がどのくらい見込み、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。 休憩所・トイレ併設をすることで、棚田での農作業体験ツアーを開催することが可能になる。農作業体験だけでなく、饗の里、梅林公園を巡る拠点としても活用していく。梅干し作り体験やシキミの出荷体験など、地域に根差した生活体験ツアーも可能である。 |
| 地域性 | ※地域の実情・課題の解決に向け工夫した点、地域資源の活用などについて記載して下さい。 新田地区は高齢化が進み、シキミ農家の後継者不足も深刻である。棚田の見学者や体験ツアーの参加者を増やしていくなかで、この地域に興味・関心を持ってもらい、移住の機会として利用ていきたい。 |
| 必要性 | ※事業を実施する意義や、補助金の交付が有益で質の高い事業展開につながる理由について記載して下さい。 北山の棚田に休憩所・トイレを併設することで、くるら戸田や饗の里、梅林公園までトイレを借りに行かなくても済むようになる。また、海岸部だけでなく山間部の魅力を発信していくためにも休憩所・トイレは必要である。 |
| 先導性 | ※事業の新規性や独自性など、工夫した点について記載して下さい。 沼津市内ではまだ農作業体験ができる施設がないと思われるので、ぜひ整備していきたい。また、新田地区は棚田だけでなくシキミ、ミカンなど複数の農産物があり、様々な体験ツアープランが1か所で開催できる点は新しいと思う。 |
| 継続性 | ※助成事業終了後も継続的・自立的な活動とするために、どのように取り組んでいくかについて記載して下さい。 休憩所を活用した体験ツアーだけでなく、いずれは飲食の提供、農家民宿としての営業を目指していきたい。 |